



新明小だより

学校教育目標 まなぶ・つながる・やりぬく

～ 新たな挑戦 明るい未来へ 希望あふれる新明小学校 ～ 校長 稲村 浩之

東松山市立新明小学校

学 校 だ よ り

9 月 号

令和8年 9月 1日



— 自分が主人公 友達も主人公 誰もが主人公 — ～2学期始業式より～

長い夏休みが終わり、今日から二学期が始まります。久しぶりに皆さんの元気な顔を見ることができ、とてもうれしく思います。

皆さんは「ちびまる子ちゃん」を知っていますね。まる子は、勉強も運動も何でもできる、完璧な主人公ではありません。宿題を忘れたり、面倒なことを後回しにしたり、友達とけんかをしたりすることもあります。それでも、家族や友達との毎日の生活の中で、笑ったり、悩んだり、失敗したりしながら過ごしています。そこが「ちびまる子ちゃん」の魅力の一つなのだと思います。

主人公になるために、特別な人になる必要はありません。皆さん一人一人が、それぞれの生活の中で主人公です。学校でも、得意なことや苦手なことがあります。うまくいく日もあれば、失敗する日もあります。そんな毎日が、皆さん自身の物語をつくっていきます。

今年の8月6日、広島に原子爆弾が投下されてから81年を迎えました。被害者団体理事長の原田浩さんは、6歳のとき、広島駅で被爆しました。原田さんには、今も忘れられない「桃」の記憶があるそうです。

原爆が落とされた後、原田さんは傷ついた女性に出会いました。その女性は、原田さんが持ってい

た桃を見て、「この子たちにちょうだい」と頼みました。しかし、恐怖と混乱の中にいた6歳の原田さんは、その桃を渡すことができませんでした。その出来事は、81年たった今も原田さんの心に残っているそうです。

この話から、人との関わりは、私たちが思っている以上に長く人の心に残るものだと感じました。

だから、二学期、皆さんに一つお願いがあります。友達の物語に、ちょっとだけ「いいこと」を登場させてください。

「おはよう」「大丈夫？」

「一緒にやろう」「ありがとう」

そんな短い言葉でいいのです。その一言が、友達にとって忘れられない言葉になるかもしれません。

自分が主人公。そして、友達も主人公です。

自分の物語だけでなく、友達の物語にも目を向けられる人になってほしいと願います。

新明小学校の教育目標は、「まなぶ、つながる、やりぬく」です。二学期も、いろいろなことを学び、友達とつながり、うまくいかないことがあっても最後までやりぬいてほしいと思います。先生たちも、皆さん一人一人の物語を応援しています。

さあ、今日から二学期です。二学期の皆さんの物語を、みんなで始めましょう。

（校長室の窓から）夏休み 未来ミーティングを開催しました

8月20日、本校で未来ミーティングを開催しました。保護者、学校運営委員、自治会、見守り隊、民生委員、市役所職員、教職員そして小学生の代表児童が参加し、「私たちの住む東松山市の魅力や10年後、こんな東松山市になってほしい、そのためにできること」をテーマに、活発な意見交換を行いました。未来を担う子どもたちからは、大人とは異なる視点から、東松山市のよさや、これからのまちへの願いが語られました。今回出された意見や提案は、終了後、市長にもお伝えする予定です。子どもたちの声を大切にしながら、学校・家庭・地域が力を合わせ、誰もが笑顔で暮らせる東松山市の未来について、これからも考えていきたいと思っています。

